

1 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

(1) 外国語活動の目標

外国語に慣れ親しむ中で、いろいろな人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、日本と外国の言語や文化の違いを知り、それらを尊重しようとする態度を育てる。

(2) めざす児童像

- ・外国語による言語活動を楽しむ子（かしこい子）
- ・外国語や身振りを使って自分の意思を積極的に表現したり、相手の話をよく聞きその意思を理解したりしようとする子（たくましい子）
- ・外国と日本の文化の違いを理解し、相手のことを思いやりながらかわる子（やさしい子）

(3) 教職員・児童・保護者による評価（アンケート）の結果

下記のアンケートの項目は、上記の「外国語活動の目標」及び「目指す児童像」に関連する項目を掲載している。

※評価欄には令和元年12月に教職員、児童、保護者に実施した学校評価の平均を掲載。

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない

<教職員アンケート>

	内 容	評価
1	児童同士の学び合いを促進する活動を積極的に取り入れた。	3. 2
2	発達段階に応じた「聴く力」、「話す力」等の学習技能を身につけさせている。	3. 0
3	体験活動によって、コミュニケーション力をはじめとする人間関係調整力の高まりを感じる。	3. 1

<児童アンケート>

	内 容	評価
1	授業中は、積極的に話し合ったり、発表したりしている。	3. 4
2	授業は分かりやすい。	3. 4
3	学校での授業で英語の力（話す・聞く・読む・書く）がついてきているように感じる。	3. 2

<児童の感想（自由記述）>

- ・私は、今まで英語が苦手だったけど、歌が少し歌えるようになったり、聞き取りテストでいい点がとれたりした。
- ・英会話をしていると、普段わからない相手の気持ちが少しわかるようになってきた。
- ・「Do you like ～?」「What do you want～?」など、いろいろな型を使って会話ができるようになり、会話が楽しくなった。
- ・将来の夢が英語で言えるようになったのでうれしかった。
- ・先生にも、英語で質問ができるようになった。
- ・英語を使って交流するのが楽しくなった。

<保護者アンケート>

	内 容	評価
1	小中一貫教育の取組は学力の向上に効果がある。(外国語活動を含む)	3. 2
2	学校は、子どもたちの人間関係に留意し、思いやりのある行動ができるように指導している。	3. 1
3	子どもは学校へ行くのが楽しいと言っている。	3. 2

2 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果の公表に関する情報

校務分掌に外国語活動担当を位置づけ、担当は特別の教育課程に基づく教育の実施に向けて、指導計画、日課編成、教材準備について校内で調整にあたっている。また、ALTの学年配置については町教育委員会と協議し、適切な配置計画を作成した。実施状況については、毎時間授業に入るALTを交えた自己評価や授業終盤に実施する児童のふり返しカード等によって改善のための評価を行うとともに、学校運営協議会で諮る学校評価において改善の視点を得ている。

また、これまで小学校低学年からの外国語活動に取り組んできているので、ALTの問いかけに対する反応の鋭さ、コミュニケーションへの意欲的な態度の向上が授業中に観察でき、その成果は顕著である。理由として、常にALTが授業に入ること、クラスサイズが小さいので、きめ細かな見とりや練習量が確保されることによると考えられる。この状況は、コミュニケーション能力の素地を養う域を超え、基礎を養うという水準だと捉えている。外国語活動に熱心に取り組む学校に対し、保護者や地域からも期待が寄せられていると推察される。

アンケート結果、普段の授業の見取りから、外国語でのコミュニケーションによって、他者と関わることのよさを改めて感じたり、より積極的に関わられたり姿も見られている。そのことは、本校が掲げる「めざす児童像」の具現化につながっていることを感じている。